

令和8年度 コミュニティ・スクール推進校事業 会議録

会議の名称	小学校学校運営協議会		
開催日時・公開等	令和8年	7月10日 (金)	
会議の公開等	公開		(非公開理由)
開催事前告知	令和8年	6月2日 (火)	ブログや校長室だより等で広く地域に周知を行った
開催後議事録等の周知	令和8年	7月17日 (金)	ブログや校長室だより等で広く地域に周知を行った
出席者	学校運営委員協議会会長 稲岡 真弓副会長 鈴木 みどり、岩渕 佳宏、市口 雅史 事務局：校長、教頭、首席 拡大大学校運営協議会出席者：市議会議員 小池晶子氏、 保護者 田儀 奈津子氏、南中振自治会 栗間 寿彦氏 枚方市教育委員会 教育指導課指導主事 如中 哉太氏 枚方市立桜丘小学校 校長 飯田 剛氏 児童：児童会代表2名、生活向上委員会から14名		
欠席者	梅村 尚弘氏		
案件名	・拡大大学校運営協議会「第2回IMS会議(I make SADA!ミーティング)」 ・会議後の振り返りと今後に向けて		
提出された資料等の名称	資料① …第3回学校運営協議会 レジюме 資料② …学校だより7月号		

会議内容

13:00～13:30 拡大大学校運営協議会「第2回IMS(アイメイクサダ)会議」開催 13:30～15:30 第3回学校運営協議会開催 以下、内容について 第2回IMS会議(拡大大学校運営協議会)振り返り 1. 児童・生徒の主体性と自治の広がり リーダーシップと発言の質の変化 会議や発表の場で、児童が自ら進んで口火を切り、スムーズに進行する形が定着している。 発言がしっかりとおり、自分のことだけでなく「自分がこうしていきたい」「こうしたらもっと良くなる」という周囲を意識した前向きな意見が多く出ている。 他責にしない(人のせいにならない)思考が自然と育っており、自分でできることを主体的に考えている。 挨拶を起点とした対人関係の広がりが 5年生の男子児童が「1年生に友達ができた。2学期までに2年生や各学年にも友達を増やしたい」と目標を掲げている。 「挨拶をしたら友達が増えた」という成功体験をもとに、自発的なアプローチを行っている。 知らない大人に「お帰り」と言われた際の返し方に悩む思春期ならではの姿も見られたが、相手がどうであれ自分からどう動くかという意識が芽生えている。 2. 学校生活の改善と安全・リスク対策 データと児童の工夫による廊下歩行の改善 学校側(保健室)で怪我人の数などのデータを共有し、子どもたちと一緒に「どうしたら廊下を走らなくなるか」を考えた。 コーンの配置や地面・机の上の掲示物(張り紙)を子どもたちの目に入るよう工夫した結果、目に見えて廊下を走る人が減り、歩く人が増えた。数値(来室者数や搬送数)としても安全の効果が現れており、これを子供たちに伝えることで安心感に繋がっている。 ただし、20分休みや昼休み、雨の日の教室での過ごし方(鬼ごっこ等)については依然として課題が残る。 いじめ・リスクへの対策・明確ないじめは見られないが、SNS等を通じた見えにくいいじめのリスクを前提に、教員間での「見逃しゼロ」の徹底を継続している。 3. 地域ボランティア「サダレンジャー」のみなさまの柔軟な運用 「行ける人が行ける時に」参加する仕組み 現在約50名が登録。在校生の保護者だけでなく、卒業生の保護者や地域住民も含まれており、学校を離れても応援し続けられる関係が作られている。 事前の登録制にするのではなく、柔軟に協力できる体制(保護者アプリ等の活用)にしている。 昨年も、関西万博への大雨の中での校外学習(外国人インタビューなど)では、児童50人に対し10人の大人が引率(4～5人に大人1人の手厚い体制)でき、安全確保と子供たちの活動の幅の広がりを両立させた。 学校側(教員)からも「体力測定の手伝い」などの依頼が当たり前のように増えており、教員の負担軽減と地域連携の好循環が生まれている。このノウハウは他校や行政からも注目されている。 4. 新たな地域連携プロジェクトの構想 リアルな「大人の課題」を子供に投げる試み 従来の「学校の課題を地域に助けてもらう」形から逆転させ、今度は「地域のリアルな課題(例:地域のお祭りの継続危機、担い手不足など)」を子供たちに投げかけてみる計画も。 例えば、子どもたちが10年後・20年後にそのお祭りがなくなったらどう思うかを考え、子ども目線で解決策やアイデアを出すことで、親を巻き込み、地域活性化に繋げるプロジェクトを今後検討していくのはどうか。 高齢者と子供たちの世代間交流 地域の一人暮らしの高齢者やリタイア世代が、学校行事や日常の中で子供たちとゆっくり話せる時間を意図的に作る(お楽しみ会などの1時間を活用)。 交流を通じて「あの先生や地域の人なら話しやすい、相談しやすい」という関係を作り、子供たちのウェルビーイング向上と、地域ボランティア(サダレンジャー)の更なる増加を目指す。 5. 地域ポイント制度(サダボ等)の構想・ポイントによる地域内の福祉・労働の循環 ボランティアへの参加や、それぞれの特技(ヨガ指導、お金・マネーの講座、ベビーシッターなど)を提供した人にポイント(サタボ)を付与する。 貯まったポイントはお金に換えるのではなく、地域の飲食店で使ったり、他の人が提供するサービス(ハンドマッサージの受講など)と相互に交換できるようにする。 高齢者の健康予防やリタイア世代の活躍の場づくりを目的とした、お金を発生させない地域経済(キッザニアの地域・大人版のようなイメージ)の仕組みを平方市(枚方市)の学校ボランティアや保育園の繋がりの中で循環させたいという構想。 ◆次回第4回 学校運営協議会 9月18日(金)13:00～ 予定
